

## (公財) ひろしまこども夢財団のお父さん応援事業

お父さんが目覚める！

2010年、政府の「イクメンプロジェクト」発足から6年が経過しました。年々「男性の子育て」への関心が一層高まる一方、仕事と家庭の両立支援が求められ、家族の中での父親の役割がより重要視されています。



(公財) ひろしまこども夢財団では、父親の子育て意識や父親の家庭内での役割等の向上をめざし、地域や企業において「お父さん応援プログラム」を実施するなどして、子育てにおける父親支援の意識を啓発するために、お父さん応援事業に取り組んできました。

### ●お父さん応援プログラム（父親向け研修プログラム）の概要

対象	主に未就学児の子育て中の男性
学習形態	レクチャーとワークショップ
実施時間	2時間
講師	認定ファシリテーター2人 プログラムを実施するファシリテーターは、豊富なワークショップの実践経験を持ち、地域子育て支援の実践者です。本プログラムを実施するための研修を受けています。
講座の流れ	①VTR-1「あなたはどんなお父さんですか？」 ②グループトーク-1：自己紹介 ③グループワーク「助っ人マップづくり」 ④身近な子育てリソースに関するインフォメーション ⑤レクチャー「子どもにとってお父さんってどういう存在？」 ⑥VTR-2「子育てが持つ大人を育てる力」 ⑦グループトーク-2：父親の子育てとワーク・ライフ・バランス ⑧イメージワーク：積み木のワーク「2つの塔を作る」 ⑨ふり返り・まとめ



### <講座受講者と主催者の感想>

■育児参画することのモチベーションが上がってよかったです。(受講者)

■家庭の中で自分という父親しか見れていなかったが、周りの意見を聞くことができ、勉強になった。

■公的資源も含め活用できる資源の再確認ができた。(受講者)

■親は子どもの最初の先生、教科書というフレーズが大変印象に残った。子どもは自分の言動をよく見て聞いているということを再認識させられ、責任をもった言動を心がけようと感じた。(受講者)

■今後、子育てにより深くかかわっていかうと感じたと同時に、ワークライフバランスについては見直していきたい。また、古い職場で早く帰ることは悪であると考えている上司もいるので、自分が上司の立場になった時には、部下にワークライフバランスの大切さを教えていきたい。(受講者)

■子育ては父親、母親だけでなくいろいろな人に助けられているということ、助けられていいんだということがわかりました。悩むことがあれば誰かに相談すればいいと、少し気持ちが楽になりました。また、母親からすれば父親も子育てに不可欠なリソースなんだなあと痛感しました。(受講者)

■実施後、育児休職制度について問い合わせがあるなど、本プログラムがイクメンたちに与えたインパクトは大きかったようです。このたびの経験が、自身の育児だけでなく、将来の職場のマネジメントなどにも活かされることを期待しています。(主催者)

■「“父親の子育て”について、お母さんの声も聞きたい。」「今日の参加者ともっと子育ての話がしたい。」といった前向きな意見も寄せられ、大変充実したセミナーとなりました。(主催者)

# お父さん応援プログラム 実施実績

## ●企業（企業の社員研修として実施）16回

年度	実施企業	所在地	人数	年度	実施企業	所在地	人数
22	NHK 広島放送局	広島市	16名	24	中国新聞労働組合	広島市	18名
	(社福) 可部大文字会	広島市	21名		(株) ディスコ	呉市	9名
	NTT 西日本一中国	広島市	13名		医療法人あかね会	広島市	7名
	マツダエース (株)	府中市	20名	年度	実施企業	所在地	人数
23	NTT 西日本一中国	広島市	20名	25	NTT 西日本一中国	広島市	19名
	明宣社・ザメディアジョン	広島市	8名		アクサ生命保険 (株)	広島市	6名
	(株) サンエイ	福山市	8名	26	広島大学	東広島市	20名
	(株) サタケ	東広島市	23名		広島電鉄 (株)	広島市	10名
	呉青年会議所	呉市	6名				

父親同士が、育児における父親の役割や仕事と家庭の両立などについて考える「お父さん応援プログラム」が広島県内で広がっている。NPO法人新座子育てネットワーク（埼玉県）が開発。「イクメン」を応援しようと、ひろしまこども夢財団（広島市中区）が後押しし、県内企業の研修などに活用されている。

## 広島県内で応援プログラム



父親の役割などについて語り合うマツダエースの社員（広島市南区のマツダ教育センター）

「仕事が忙しく、子どもに接する機会が少ない」「怒ると子どもが近寄らない」。その後、フアシリテータと19日にあった自動車関連の研修で、未就学児の子を待つ20〜40歳代の男性ら22人が自己紹介後、家庭の現状や施設、制度などをサポートする人「職場」に分類して把握し

# 育児談議 職場に新風

平成22年10月26日  
中国新聞 暮らし面掲載

## 仕事と家庭 両立考える

総務省の2006年の調査では、6歳未満の子がいる日本の男性の育児時間は1日33分で米国や英国などの半分程度という。夢財団は本年度、育児に熱心なイクメンの輪を職場や地域に広げようと、同プログラムを取り入れた。フアシリテータで養成講座を開いたほか、本年度中に、企業や子育て支援センターなど県内11カ所でプログラムを実施する。（糸村泰樹）

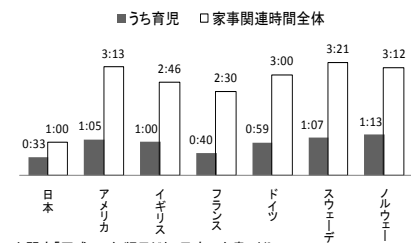
「職場の人と育児や家庭のことを話すのは新鮮。両立に悩んでいるのは自分だけじゃないと心強くなった」と5歳の双子がいる中村朋樹さん（38）。同ネットワークの坂本純子代表理事（48）は、「職場内での研修を通じ、『あの人も家に帰れば父親なんだ』という意識が広がれば、育児しやすい環境が生まれる」と話していた。

仕事と家庭の両立を考えた。父親の育児が子どもに与えるメリットや育児が父親にもたらす効用なども学んだ。

### 子育てしたい！日本のお父さんの現状は…

- 1日33分。日本の父親の育児時間
- 30代男性の2割以上が週60時間以上労働
- ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じている人の方が、仕事への意欲が高い
- 仕事と育児の両立を支援する取り組みが企業実績に与えるプラス面…優秀な人材がやめないですむ。
- 人材育成よりも育児支援環境を整備する方が若い人材の定着率が向上する。

### 6歳未満児のいる夫の家事、育児時間



# お父さん応援プログラム 実施申込書



申込日：H27年 月 日

お父さん応援プログラムの実施を申し込みます。

企業等名		
所在地	〒	
窓口担当者	<部署>	<氏名>
連絡先	TEL	FAX
	Email	
実施希望時期	月頃	
研修会場 (予定)		
受講予定人数	名	
備考		

★お申し込みは、実施申込書(コピー可)にご記入の上、会社概要の分かるパンフレット等を同封して、下記の宛先に郵送でお願いいたします。

<申込み・問い合わせ先>

公益財団法人ひろしまこども夢財団

〒730-8511 広島市中区基町 10-52 広島県庁内

電話・FAX 082-212-1007 Email : yume3@ikuchan.or.jp



イクちゃん  
広島県の子ども  
元気いっぱいキャラクター

(公財)ひろしまこども夢財団 お父さん応援事業

# お父さん応援プログラム

## 実施企業募集

仕事と子育ての両立支援に取り組まれる企業を応援するために  
父親の役割をさまざまな視点から見直しながら  
仕事と子育ての両立について学ぶ講座を計画しました。  
「男性社員向け」の職場研修としてぜひご活用ください。



### \*「お父さん応援プログラム」とは？

埼玉県新座市のNPO法人新座子育てネットワークが開発した、父親の役割について学び、仕事と子育てについて考え、ワークショップでリフレッシュする、子育てする男性のための研修プログラムです。

この講座に参加した8割のお父さんから「良かった」と評価され、仕事と子育ての両立を目指す社員は仕事の能率が高いといわれ、全国の企業で社員研修に採用されています。

**実施時期：**6月～12月頃

**講座回数：**1企業につき1回まで

**対象企業：**主に未就学児を子育て中の男性社員（12～20人）が受講可能で、  
これまで夢財団主催のお父さん応援プログラムを実施したことのない企業

**実施方法：**実施企業には、本講座を自社の研修として位置づけ、研修会場と受講者を確保していただき、講師(ファシリテーター)は当財団が派遣します。  
(講師謝金、講座資料代は、財団が負担します)

**募集数：**2企業(先着順)

**学習内容：**○ VTR等による父親の役割についてのレクチャー  
○ 子育てに関する資源を探る「助っ人マップづくり」  
○ ワーク・ライフ・バランスを実感するイメージワークなど  
\*別添の資料もご覧ください。

**申込方法：**裏面申込用紙をご利用の上、郵送でお願いします。



＜お問合せ・お申込み先＞

主催：公益財団法人ひろしまこども夢財団

URL <http://www.ikuchan.or.jp/>

〒730-8511

広島市中区基町10-52 広島県庁内

TEL&FAX (082)212-1007